

「作品目録」「主題目録」と 作品の番号

～楽曲を特定し、詳しく知るために～

市川 啓子

ケツヘル番号、BWV番号って…?

モーツァルトの「ケツヘル〇〇番」、J.S.バッハの「BWV〇〇番」という言葉を聞いたことがありますか？ある楽曲を特定するための番号なのですが、いわゆる「作品番号」とは、ちょっと違います。

「作品番号」は、作曲家の作品を認証するための番号で、英語・独語ではOpus（オーパス）と呼ばれ、一般に「Op.」と略され、日本語で「作品〇〇番」と書かれます。これは、作曲家自身や出版社が付けた場合が多く、不完全なため全体像把握には混乱を招くことが多々ありました。

そこで、後世の研究者により、出版されなかった作品も含めて一人の作曲家の全体像を捉えるために、長年の研究と努力の結晶として編み出されたものが「作品目録」です。^(注)

「作品目録」は、一定の方式で全作品が並べられ、いつ作曲されたのか？初演はいつだったのか？自筆譜・筆写譜はどうなったか？出版譜の状況は？全集楽譜の有無は？参考文献は？…等々、様々な疑問に答えてくれます。ある楽曲について詳しく知りたいときに、必見の参考図書と言えるでしょう。

なかでも、探すときに「この曲！」と特定できるように、楽曲ごと、楽章ごとの主題（主に歌いだし）の譜例が付けられているものを「主題目録」と言います。そして、その目録で付された整理番号は、いわゆる「作品番号」とは別に、目録編纂者の名前や書名の頭文字等と呼ばれているのです。

どんな「作品目録」があるのかを知るには？

参考図書室の X-044：音楽家研究のための参考文献目録、便覧及び作品目録 の棚に行ってみましょう。作品目録、主題目録を含めて、ある作曲家についての情報を知るための参考図書が、作曲家別にたくさん並べられています。今回は、良く知られている学術的な整理番号の元になっている主題目録をご紹介します。

J.S.バッハのBWV.〇〇番は…

実は、次の目録で付けられた番号です。

Thematisch-systematisches Verzeichnis der musikalischen Werke von Johann Sebastian Bach: Bach-Werk-Verzeichnis (BWV), herausgegeben von Wolfgang Schmieder, überarbeitete und erw. Ausg. (Breitkopf & Härtel, 1990) 請求記号 ● X-044/B118/S

ドイツの音楽文献学者ヴォルフガング・シュミーダーによって1950年に初版が出されたこの大部な主題目録は、1985年に第2版、1990年に第2版の増補改訂版が出されました。この目録で付された番号が副書名 "Bach-Werk-Verzeichnis" の頭文字から、「BWV番号」と呼ばれています。

作品目録の編集方法は様々ですが、大きく分けて、作曲年代順に並べる方法と、楽曲形式やジャンル別に並べる方法の2種類があります。ケツヘルによるモーツァルトの目録が作曲年代順であるのに対し、このバッハの目録はジャンル別で、声楽曲のカンタータから始まり、器楽

曲の「フーガの技法」で初版は終わっています。作曲年代順に探したい人のためには、年代表“Zeittafel”も付けられています。譜例は見やすく工夫されていますが、楽器編成、自筆譜や出版譜の状況、文献表等の各項目の記述は独語です。見慣れない略語も多いので、略語表“Verzeichnis der Abkürzungen”を参照することと、独語辞書を傍らに置くことをお勧めします。

ハイドンのホーボーケン番号

「Hob. I :82」…というように、ローマ数字とアラビア数字が混ざった複雑な番号をどこかで見たことがありますか？これは、ヨーゼフ・ハイドンの作品の整理番号で、下記の主題目録に基づいています。

Joseph Haydn: Bd.1~3: Thematisch-Bibliographisches Werkverzeichnis, zusammengestellt von Anthony van Hoboken. (B.Schott's Söhne, 1957[Bd.1], 1971[Bd.2], 1978[Bd.3]) 請求記号 ● X-044/H414/H-1~3

この3巻物の目録の作成者アントニー・ファン・ホーボーケンの名前から、「ホーボーケン番号」と呼ばれています。

ホーボーケンは、ハイドンの作品数の膨大さと自筆譜がわずかしか残っていないことから、ケッヘル『モーツァルト全作品年代別主題別目録』のような一貫した年代順による目録作成を断念し、器楽曲と声楽曲に分けた上でグループ分けして整理することを考案しました。内訳は、

- ①20のグループから成る器楽曲（第1巻）
- ②11のグループから成る声楽曲（第2巻）
- ③ハイドン自身によって編曲されたスコットランドおよびウェールズ地方の民謡、その他（第2巻）

そして、第3巻「索引、補遺、正誤表」が、第1巻出版後20年以上を経て出版されました。特に声楽作品のタイトルとテキスト冒頭からの索引は、きわめて有用です。

長年の研究により、多くの混乱と論争と不確実性の中から秩序と統一をもたらした画期的な目録ですが、研究は日進月歩。特に器楽曲に関

しては、別の手段から、より新しい情報を得る努力も必要と思われます。

請求記号 ● X-044/H414/H-1~3

シューベルトのD.○○番は…

オーストリアの伝記作者・書誌学者のオットー・エーリヒ・ドイチュが編纂した下記の主題目録で付された番号です。

Franz Schubert, thematisches Verzeichnis seiner Werke in chronologischer Folge, von Otto Erich Deutsch. (Bärenreiter,1978)

請求記号 ● X-044/S384/D

この目録は、最初英語で1951年に出版され、1978年に新全集のシリーズ8の第4巻として大幅に改訂されて独語で出版されました。書名が示す通り、作曲年代順の目録です。

ドイチュは、前記ホーボーケンの音楽司書を務めたこともあり、ヘンデル、モーツァルト、そして、シューベルト研究に多大な功績を残しました。

シューベルトの場合、作品番号と作曲年代がまるで無関係でした。研究のためには作曲年代順に並べる必要がありましたが、幸い手稿のほとんどに日付が記されていて、比較的容易に成し遂げられたとのことです。

特徴としては、各作品の全集収録の巻号が最初に記されていること。また、付録に、偽作と疑わしい作品や作品番号との対照表、索引が付けられ、特に声楽作品を標題と冒頭から探せる索引は大変な難しいものです。

他にもたくさんの「作品目録」が…

X-044の棚にあります。ぜひ手に取ってみてください。機会があれば、別の目録もご紹介させていただきます。

(注) モーツァルトの作品目録を作ったケッヘルさんについては、『ばるらんど』271号に紹介記事がありますので、是非お読みください。